

経営比較分析表（令和3年度決算）

京都府舞鶴市 舞鶴市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	3	-	訓	^
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
79,499	4,671	非該当	非該当	20 : 1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

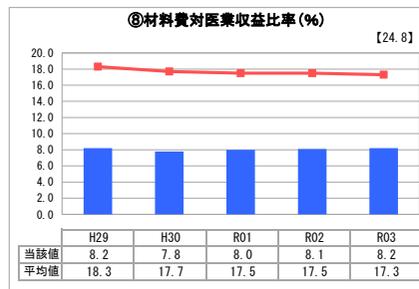
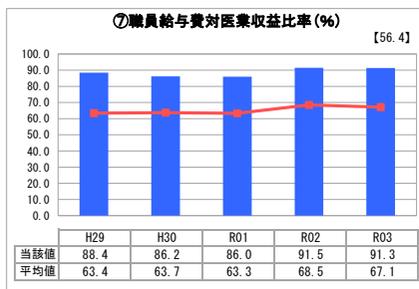
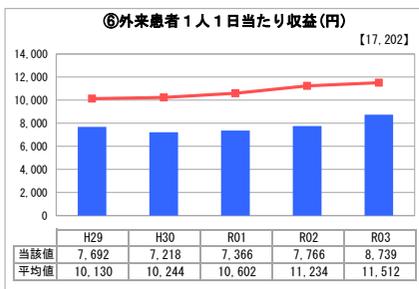
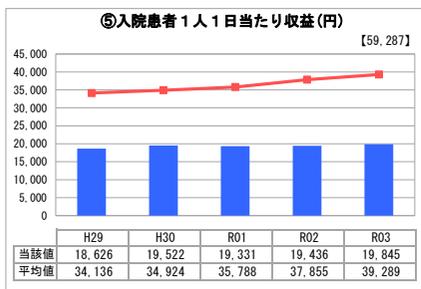
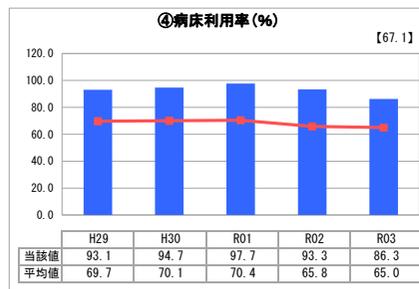
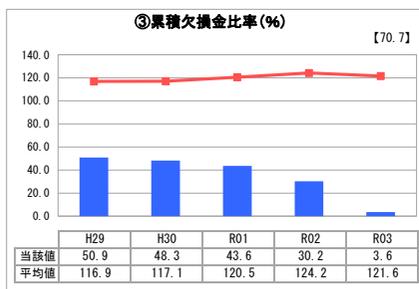
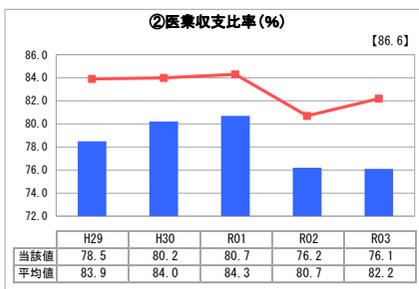
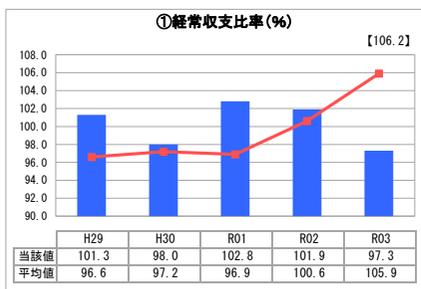
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	100	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	100
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
-	96	96

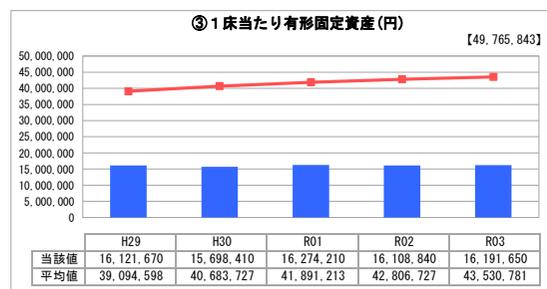
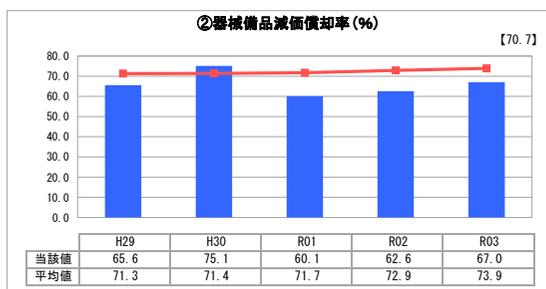
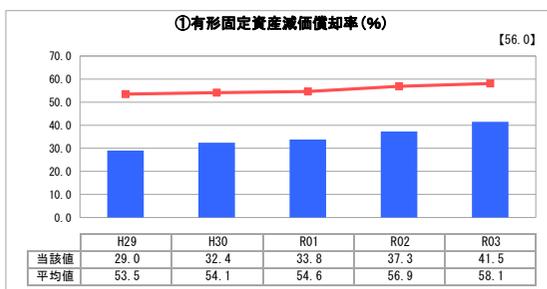
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

舞鶴市民病院は平成26年に療養病床に特化した医療療養型病院に移行し、急性期医療を担う舞鶴市内の公的3病院（舞鶴医療センター、舞鶴共済病院、舞鶴赤十字病院）等と緊密に連携しながら、積極的に患者を受け入れることにより、地域における慢性期の医療ニーズに対応している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

現行の診療報酬体系において、小規模の医療療養型病院を公営企業により運営することには一定の制約があるため収益性は低く、医業収支比率は平均値を下回っており、職員給与と費対医業収益比率は平均値よりも高い状況にある。

医療療養型病院に移行してから病床利用率は着実に上昇し、一定の経営改善が図られる中で病院の運営状況は安定化してきたが、令和3年度においては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、入院の受け入れを制御しながら運営したこと、さらには院内感染の発生により入院の受け入れを一定期間停止せざるを得なかったことが入院収益に大きく影響を及ぼしている。

2. 老朽化の状況について

現在の病院建物は平成25年の完成であるため、有形固定資産減価償却率は平均値より低い。一方、器械備品については旧病院から引き継いでいるものも多く、平均値に近い減価償却率となっている。

経年劣化している器械備品については、その必要性と優先順位を踏まえ、今後計画的に更新していく予定である。

全体総括

医療療養型病院としての運営状況は安定化してきたが、慢性期医療の確保という地域における必須の機能・役割を果たすため、感染症をはじめとするあらゆるリスクに対するリスクマネジメントの強化を図りながら、引き続き経営改善に努め、安定的で持続可能な病院運営に取り組む必要がある。